

## 大しめ縄かけ替え

# 伝統の技を未来へ

出雲大社神楽殿にかかる大しめ縄。出雲大社の代名詞といっても過言ではない。大しめ縄は、飯南町で制作されています。平成30年7月17日、神楽殿にその大しめ縄が奉納されました。

た夜8時前でした。17日は、いよいよ奉納です。朝8時に大しめ縄をのせたトレーラーが飯南町を出発。現地では、多くの人が見守る中、古い大しめ縄の取り外し、しめの子と飾り縄の取り付け作業が行われ、慎重に神楽殿に取り付けられました。全ての作業が完了した午後4時半。撚り合わせを見守っていた参拝者から大きな拍手が起りました。

注連縄企業組合でしめ縄制作の責任者「棟梁」を務める石橋真治さんは、「棟梁としては、平成24年に続いて2回目の奉納で、多少気持の余裕はあったが、一発勝負のためプレッシャーは大きかった。今は無事に奉納できてホッとしている」と話していました。

しめ縄制作に携わることで、全国の制作に携わる人とのつながりが生まれ広がっていて「多くの方との出会いをいただいています。飯南町に足を運んでもらうきっかけや、技術の伝承にも繋がっているのではないかと」石橋棟梁は語ります。

### 後継者を育てる

大しめ縄づくりは、出雲大社の大しめ縄に限らず、経験が必要だといえます。「技術を伝承する機会、作るの場所を見る機会がどれだけあるか。完成形をイメージして、自分ならどうするか、責任をもって見て作業することが重要だ」と石橋棟梁。



棟梁を務めた石橋真治さん

なる部分を作り、最後にコモを巻きます。これを2本作り、撚り合わせます。しめ縄の下側に取り付ける「しめの子」や、つり木と本体に掛ける「飾り縄」なども作ります。

7月15日に、制作の最終段階、撚り合わせ作業が大しめ縄創作館で行われました。当日は約1000人が作業に携わり、約1000人の観覧者が来場。重さ2トン以上の大なわをクレーンで持ち上げ、もう片方の大なわを人力で転がして撚り合わせます。朝9時から始まった作業、トレーラーへの積み込みが終わったのは、辺りが暗くなつ

### 撚り合わせ、奉納

なる部分を作り、最後にコモを巻きます。これを2本作り、撚り合わせます。しめ縄の下側に取り付ける「しめの子」や、つり木と本体に掛ける「飾り縄」なども作ります。

### しめ縄づくりの「縁」

「出雲大社の大しめ縄は、日本最大級ということもあるが、60数年前、古くからの『縁』で制作を担っているというところが大きい。大きさに、特別な想いがある」と話すのは企業組合専務理事の那須久司さん。平成25年に誕生した飯南町注連縄企業組合では、現在、全

そういつた中、しめ縄制作の伝統技術に魅力を感じ、その技術を学ぼうと、地域おこし協力隊として飯南町に移住された皆さんに、しめ縄制作に対する想いを聞きました。

### 霧生友孝さん

平成27年4月から平成30年3月まで地域おこし協力隊として大しめ縄創作館で勤務。4月から、企業組合の契約社員。今回の大しめ縄制作では、かざり縄の制作を主に担当。



前職は営業職として、作られたものを紹介する側、今は作る側で環境が違います。ワラをさわっていること、そのこと自体が楽しいです。それと、システムチックな産業ではない、生活の一部にしめ縄づくりがあるところに魅力を感じています。

引き続きしめなわ館で働くことができ嬉しです。これからは、飯南町で暮らしている人



1 赤穂モチの田植え。作付面積は約1.5ha  
2 安全祈願祭。注連縄企業組合の菅志代表理事  
3 つり木の伐採。まっすぐなヒノキ  
4 しめ縄を巻くコモを編む  
5 中芯づくり。束ねて太くしていく  
6 設計図にあわせてコモを繋ぐ  
7 中芯のコモ巻き。左右均等に転がします  
8 制作途中のしめの子。重さは1つ250kg  
9 飾り縄は12本